

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2470200888 | | |
| 法人名 | 有限会社 日本サポートリンク | | |
| 事業所名 | 色えんぴつ 四日市 | | |
| 所在地 | 〒510-0826四日市市赤堀1丁目6-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 7 月 12 日 | 評価結果市町提出日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tru&JievsyoCd=2470200888-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | BERシステムズ株式会社 | | |
| 所在地 | 三重県 四日市市 八王子町 439-1 | | |
| 訪問調査日 | 平成 28 年 8 月 23 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「あなたらしく いつまでも」を職員全員が理解し、大切にしています。日々の生活の中で、ご本人様に選択して頂けるような声掛けや環境作りを心掛けています。季節感を大切にし、毎日の食事では旬の食材を取り入れたり、利用者様と一緒に季節の作品を作り掲示しています。施設内でゆったりと過ごす時間はもちろんですが、利用者様のリクエストを取り入れた夕食や外出も常々行っています。春はお花見、夏は近所の園児を招いての夏祭り、秋は収穫祭、冬は餅つきやイルミネーション見学等があります。健康管理においては、主治医を始め協力医療機関の方々の協力を得ながら、細かな観察と相談報告を繰り返し、それらを毎月のお手紙という形等でご家族にも相談報告をしています。利用者様やご家族にとって、その時々に合わせて最善を尽くせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・トイレの隅に古い型の炊飯器を置き、利用者が汚染した時直ぐに温かいタオルが使用出来る様に設置されていた。良いアイデアであると同時に優しい思いやりの気持ちを強く感じた。
 ・家族の要求にはすべて試みる。やってみて出来ない場合、効果の出なかった場合には、すぐに家族と話し合う機会を持ち修正するなど、サービス提供に対し適切で前向きな対応が行われている。
 ・薬の管理では適した引き出しを使い、引き出しから小分け分を取り出し小分けする人(自分の名前を書いた留め具でチェックする)、小分けした中身に間違いが無いが再度確認する人、服薬時に確認する人、と3人以上の職員の確認作業で誤薬の防止に繋がっている。
 ・処遇の勉強会を計画し、改善、向上に努める前向きな努力が実行されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 暮らす場所が変わっても「あなたらしくいつまでも」の理念に添い、その方らしく生活が出来る様に支援している。施設の近辺だけではなく、広く地域交流が出来る様、地域の催し物へ参加する等している。 | ありのままの利用者を大切に考え、受け入れる事が理念に繋がると考えている。理念に沿った支援を管理者と職員は実践していく上で、日々考え、反省し、研鑽しながら、目の前に居る利用者をありのまま受け入れる事が“あなたらしく”に繋がるのだと気付き、現在の取り組みに至っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の人達との挨拶、地域での祭りや研修等への参加、近隣の託児所の園児達を招いてイベントを行うのも恒例化している。毎日の散歩の際には挨拶を心掛け、顔馴染みの関係作りに努めている。 | 近隣は会社が多く一般住民が少ない事から、比較的閉鎖的で交流が難しい面がある。その中で、毎日の散歩時に挨拶を繰り返すことで、徐々に顔見知りの関係を築いている。地域の祭りなど行事に参加して、徐々に地域との繋がりをもつ努力をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の中学生の福祉体験、専門学校の実習を受け入れ、認知症に関して話し合いの場を設ける事で認知症への理解を深めて頂ける様努めている。運営推進会議を通し、普段の生活の様子を知って頂き支援の方法等もお伝えしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月に1度会議を開催している。今年度からは隣接小規模クレヨンと合同で行っている。施設の近況をDVDにまとめ、普段の様子を見て頂いたり、参加者から近隣の情報を頂いたり、ご意見を頂く場になっている。 | 今年5月からクレヨンと合同開催して、施設の様子や利用者の日常をDVDにまとめ、様子を見てもらいながら近況報告等などの工夫を行い、クレヨン利用者のご家族や行政からの意見も積極的に取り入れている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議や催し物に行政や地域の方の参加を呼び掛け、施設の雰囲気や状況を知って頂ける様になっている。毎月介護相談員の来訪があり、入居者の声を拾って頂き要望等があれば職員に伝えて頂ける様な関係作りに努めている。 | 行政や介護相談員を、事業所での季節の行事や運営推進会議に招き、自分の思いを言葉で伝える事が困難な利用者も含めて、普段の様子を見て意見等を聞く機会をつくっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員がしっかりと理解し、取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠をするが、それ以外は常に解放しており、基本的には自由に行き来が可能な環境にある。 | 玄関は開放的で、利用者は自由に行き来している。帰宅願望を訴える利用者や、夕方になると定期的に外に出る利用者もいるが、引き止めず利用者の想いに寄り添い、対話を大切にしながら一緒に外に出ていくという対応を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全職員がしっかりと理解し、取り組んでいる。会議や研修に置いても常に話し合い、職員間で注意喚起をし合っている。ふとした言葉が虐待に繋がる事を理解し、抑制する様な言葉がない様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要性のある方には出来る限り、最大限の情報提供を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分な説明を行い、不安や疑問を聞き出して丁寧な対応に配慮している。契約時には同時に施設見学も行って頂いている。利用者及びご家族にとって安心して利用出来る施設だと納得して頂いた上での契約としている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会やイベント時にご家族と話す機会を持つようにしている。面会に見える機会の少ない方や、お時間のない方には電話を掛けご家族の思い等を確認する事もある。 | 個人別面会ノートがあり、意見や希望を自由に書いて出せる工夫がある。毎月「ご家族様へ」の便りを、利用者家族に送り、受診や薬の説明、身体状況、日々の状況、運営推進会議のお知らせや参加のお礼、意見や要望を受け入れた内容など詳細に記述している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の定例会議において意見・提案を話し合っている。週報や申し送りノートも活用し、要望等は直接社長にも届く様に出来ている。管理者は随時職員と意見交換を重ね、出来る限り早めに反映する様努めている。 | 勤務時間などから定例会議に参加出来ない非常勤職員などは、週報や申し送りノートを活用している。全職員から平等に意見や提案を聞ける様、施設長、管理者は常に職員とコミュニケーションを図り、話しやすい環境作りが行われている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的な自己評価・管理者の評価を行い能力に見合った報酬を定めたり見直したりしている。外部研修やOJT等は常に掲示しており誰でも参加出来る様にしている。各職員はやりがいや向上心を持って働ける様配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員のレベルや、普段から何について悩んでいるか等を聞き、個々に合った研修を受ける機会を設けている。研修後は報告書提出後にその月の会議で皆に報告し、全員で共有出来る様に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修や施設見学等を行い他事業所との交流を持ち、ネットワーク作りを行いサービス向上に繋がる様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前にご本人やご家族から困っている事や不安な事、要望を出来る限り聞き取らせて頂き、必要であればその時間を何度も設け安心を確保出来る様な関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族から困っている事や不安な事、要望等について入居申し込みの段階で聞き取りを行い関係づくりに努めている。またその要望等に寄り添い、出来る限り応えられる様に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービスを導入する段階で、ご本人の状況、生活環境の情報収集を行い、どのような支援が必要かを話し合っている。必要時には他のサービス利用も検討し、ご家族等に提案する事もある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する側、される側という一方的な立場にならない様日々コミュニケーションを図っている。利用者一人一人に合った役割を見つけて支援を行い、様々な個性を持つ利用者と職員が暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族とご本人の繋がりが切れない様にこれまでの関係性を理解し、協力して頂ける事はお願いしている。毎月お手紙で近況報告や相談を行い、共に支えていると言う意識を持って頂ける様にしている。手紙以外にも細めに連絡をさせて頂き関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族やご本人から特別な要望がない限り、面会や電話の受け入れ、外出支援等をいつでも行っている。 | 入所前に行っていたお祭りやお店等、馴染みの場所へ行く支援や、近くの幼稚園児達と夏祭りなど交流の場をつくっている。買い物や散歩に出かけ、挨拶する事から始め、馴染みの人が出来、ここが居場所になるように努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を見守り、個々にお部屋で過ごされる時間も尊重しつつ、皆で関わり合えるようなレクやイベント等の支援を行っている。その際、利用者が孤立する事がない様、必要に応じて職員が介入し交流が持てる様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も相談があれば受け付ける体制を取っている。退所された利用者から手紙が届いたり、施設でターミナルケアを行ったご家族がその方の命日に来所されお話しをする様な事もあった。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望や意向を言葉で伝えられる方はその内容を把握し沿える様に努めている。言葉で伝える事が困難な方は表情や動作から察したりご家族からの聞き取り、生活歴等から出来る限り感じ取りその方の思いを職員間で検討し、添える様に努めている。 | 勤務年数の長い職員が多く、入居者とは変わらずに接しており、馴染みの関係が出来ている。思いを言葉で表す事が困難な場合は、ふとした表情や仕草からこぼれる思いを汲み取るスキルアップに努めている。職員間で利用者の想いを共有するため、細かな記録で申し送りしている。 | 職員の勤務経験も長く利用者との良い関係が築かれているが、利用者の帰宅願望などの"思い"に対し、その"原因"を突き止め排除していく工夫(接遇の学習など)が更に期待される。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にセンター方式を使い、情報提供して頂いたものを基に日常会話やご家族、知人の方からの情報を取り入れその方の生活歴や馴染み等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている | 個々の一日の過ごし方を大切にしながら、言葉や表情を観察し小さな変化も記録、申し送りを行っている。定例会議でも個々の現状を話し合い、職員間で情報を共有し、把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の意向や情報を踏まえて毎月の定例会議でカンファレンス、モニタリングを行っている。また協力医療関係者からの意見も取り入れ、介護計画に反映している。 | 入居者の担当職員は、より細かい観察を心がけ、定例会議などで積極的にその方の意向や情報を伝え、共有化を図っている。家族面会時には直接会話を持つか、面会ノートを活用し意見を頂ける様工夫している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の気づきや状況を個々に記録し、申し送り等でより詳細に伝え、カンファレンスに繋げている。必要時には24時間シートや体位交換表を利用し職員間で情報を共有しやすい様に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 専門医への受診対応、法事やご家族との旅行への参加支援を行っている。訪問歯科、訪問マッサージを受け入れ必要なニーズに応える様努めている。他にもご本人、ご家族からのニーズがあれば出来る限り受け付ける体制を取っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の託児所との交流や祭り、ボランティアの慰問を受け入れている。散歩中に近隣の方や、隣接小規模の利用者との会話を楽しみにしている方もいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 長期に渡り近くのかかりつけ医の協力を得ており、様々な問題に細やかな対応をして頂いている。必要時には専門医への紹介状等の対応も得る事が出来、よりスムーズな受診に繋がっている。 | かかりつけ医での受診日朝にfaxで細かな情報を送り、利用者の前では言い辛い事や、伝え忘れが無い様に工夫している。受診後かかりつけ薬局へ受診の内容を報告相談し、帰所後改めて受診内容を薬局へfaxして今後に繋げる関係作りをしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に一度、協力医院の看護師が勤務しており、状態を診て処置等をして頂いたり、アドバイスを頂いている。問題点や気になる事があれば主治医に伝達され受診に繋がっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 随時、必要な情報伝達出来る様に細やかな面会、連絡等を行っている。安定した状態で早期退院出来る様に主治医との意見交換出来る体制を取っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時の段階で簡単な意向の聞き取りをしている。入所後の重度化、終末期においては状態の変化に合わせて、その都度ご家族、主治医との話し合いを持ち、臨機応変に適切な支援出来る様心掛けている。 | 過去施設内で4人の看取りを行った。常に家族と話し合い、家族の希望、意向を最重視し、悔いが残らない支援がされている。対応する職員も不安にならない様何度も話し合い、流れ等を書面化し、チームで看取りケアを行っているという認識が持てる様努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は救急、急変時のマニュアルを理解し、冷静かつ的確な判断や対応出来る様指導している。急変や事故発生時の初動の流れが詰め所に掲示してある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防点検等に加え、年6回の避難訓練を行い、避難場所、方法の確認を行っている。防災用品や非常食等も備蓄している。定期的に定例会議や運営推進会議でも話し合いを行っている。 | 避難訓練は事前に担当者を決め、責任を持ち火事・地震・夜間など色々な場面を想定した訓練を行っている。消防立会い訓練時にはスモークを焚いて、煙が充満する速さと怖さを、よりリアルな状況で体験した。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人の人格を尊重しプライバシー確保に努めている、名前は入所時に本人やご家族に馴染みのある呼び方を確認し対応している。言葉かけに配慮している。 | 利用者一人ひとりの馴染みのある呼び方や言葉かけをしている。個性を理解し、人格を尊重した言葉かけを行う様、職員間でも注意喚起合っている。プライバシーを損ねないよう時には小声や場所を移動して言葉かけを行う様配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望を理解し、自己決定に繋がる様支援している。入浴の有無、献立の内容等生活の色々な場面で出来る限り個々の希望を取り入れる様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活の中で大まかな流れは決まっているが個々のペースや希望に沿ってその都度時間を工夫して生活出来る様にしている。職員ペースで無理強いにならない声掛けを心掛けている。意思疎通が難しい方にも配慮を忘れない様努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の整容や洋服選びも個々の好みで対応する。TPOに合わせて自身で着替える方も居る。訪問整容の際はご自分で希望を伝えカット調整される方も居る。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みの意見を聞いたり、季節を感じられる旬の食材を取り入れる。誕生日にはその方の好きな物にしたり、年に数回外食も行っている。利用者個々に合わせた下膳、片付けを一緒に行う。 | 夕食作りは利用者のできるところを手伝ってもらっている。副食等の残量観察で、個々の好き嫌いを把握し、職員間で情報共有している。嫌いな食物も料理方法を変えると食べてもらえるので、利用者との会話を楽しみながら情報を得ている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の状態に合わせ、食事形態や量に配慮し、栄養バランスに気を付けている。定期的な水分補給を心掛け、同時に好きな時に好きなだけ飲めるよう目に付く様な所に湯のみとお茶を用意している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨きを支援している。自身で磨く事が困難な方は職員が介助を行ったり、口腔ウエティ等を使用して清潔保持に努めている。自身で歯磨きを行う方にも口腔内の確認をさせて頂く事がある。訪問歯科医に定期的なチェックやアドバイスも頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを読み取り、声掛け誘導を行っている。排泄前の表情や行動を観察把握し、介助を行う事で不要なおむつ等を控え快適に過ごして頂ける様支援する | オムツやパットは出来る限り使用しないように、普段の様子観察から些細な表情の変化や行動を察知し、トイレ誘導の声掛けを行っている。身体が拘縮して寝たきりの方に対してのみオムツを使用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 生活歴や今までの排泄記録表を活用し個々に合った支援をする。バナナジュースやヤクルト、オリゴ糖などを積極的に取り入れ、体操や散歩も行い出来る限り便秘薬を減らし自然な排泄に向け努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ある程度の時間設定はあるが、個人の希望を取り入れ入浴出来る様支援している。季節を感じて頂ける菖蒲湯やゆず湯にする事もある。受診や行事が合っても入浴が出来る様に支援している。 | 希望者には朝からでも入浴できるなど、入浴時間は臨機応変に対処しており、受診や外出予定の人も、時間を気にしなくてよい。入浴剤は常に3種類あり、入居者が好きな物を選択できる工夫や、季節が感じられる、菖蒲湯やゆず湯にすることもある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室フロアのソファ、玄関、庭のベンチ等それぞれが気持ち良く休める場所や状況で個人の時間を過ごして頂いている。フロアや居室の温度湿度に常時気を配り配属している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬間違いがない様、二段階✓をし服薬が終わるまでは側で見守っている。服薬後には✓表に記入している。症状の変化等定期的に話し合い、主治医薬剤師に報告相談している。定期的に薬剤師との勉強会を開催し薬についての知識を深める様努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎日の生活の中で個々の興味や出来る事したい事を踏まえ、役割として行える様支援している。買い物や外食、ドライブ等を行い気分転換を図れる様努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 個々の買い物の希望や季節毎の外出支援は積極的に行っている。利用者の希望を基におやつを食べに出掛けたり、季節に触れる外出をしている。職員が付き添えない場合等はご家族に伝え協力をお願いする事もある。 | 季節ごとに花見などに外出し、日常的には事業所の庭でくつろいだり、近所のスーパーへ買い物の同行や、入居者間でミニ会議やアンケートを取り、コメダ(喫茶店)や和菓子屋など、どこへ行くか決めて行く事も多い。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族の同意を得た、一定の金額のお金の所持をして頂いている方も居る。ご本人より買い物の希望があれば所持金から買い物を頂き支払い等でご本人がお金に触れる機会を持てる様にしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人からの希望があれば家族等に電話を繋いだりしてご家族の声を聞いて頂いたりしている。又、家族の同意があれば本人管理のもと、いつでも携帯電話が使用出来る様支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じて頂ける様、利用者と一緒に季節を感じる作品を手作りして頂き展示している。又、音や光、温度や湿度等に配慮し快適に過ごして頂けるように努めている。 | リビングは吹き抜けで、天窓があり解放感があるが、夏は暑くなるので見えない所に置いた大きなサーキュレーターがリビングに涼しい風を送り、自然の風の流れるを感じる快適な環境作りの配慮がある。ホールや玄関には季節感のある利用者の手作り作品を飾り、季節の変化に楽しみを持って生活出来る様に工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 施設内外にソファやベンチを置いて利用者が自由に過ごせる様支援している。夕食後夕涼みされる方、ホールで利用者の同意を得て、歌謡ショーのTVを見たり出来る様支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にご本人ご家族と相談し以前から使用している慣れ親しんだ物を持ってきて頂く様にお話している。居室にはご家族やペットの写真を飾り、ご本人が安心して過ごして頂ける様配慮をしている。 | 利用者一人ひとりの生活歴、家族背景を感じることのできる居室に工夫されている。家族の写真やペットの写真、テレビ、お位牌など利用者の想いがこもった品物や家具が配置され、落ち着いた個性豊かな居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 生活用品はいつも同じ場所に置いて、タンスの引き出しには入っている物の名前を書いてシールを貼り、出来るだけ自立して生活が送れる様工夫している。安全に配慮しつつ、楽しみながら生活出来る様な環境作りを努めている。 | | |